

まちづくり懇談会議事録【公開用】

日 時：令和元年 11 月 10 日（日）14 時 00 分～15 時 42 分

場 所：中里公民館

出席者：4 人

1. 開会
2. 町長挨拶
※配布資料確認および日程説明
3. 今年度のまちの動き（資料①）
※質疑応答
4. これからのまちづくり（資料②）
5. 懇談
6. その他
(1) 出前型政策・施策説明会「栗山町のまちづくり」について（資料③）
※全体質疑
7. 閉会

《質疑応答》

【宿泊施設「くりとまる」について】

町民：

「くりとまる」の宿泊設備は何部屋あるのか。

まちづくり総括

1 階と 2 階合わせて 2 部屋、全部で 6 ベッドある。

【栗山町スキー場の廃止について】

町民：

栗山町スキー場の廃止はもう決定事項であり、直面する議題に含めなくてもいいのではないかと。

町長：

町長就任時に掲げた 5 つの調整課題の 1 つであり、この機会に町民の皆さんに廃止に至った経緯や考え方も含めてご報告させていただきたく、掲載した。

【栗山赤十字病院について】

町民：

病院問題に関して資料に 20 年から 30 年と記述があるが、もっと短期で解決できないか。

町長：

20 年・30 年後を踏まえた、という記述にしたのは、将来の人口や受診動向を踏まえて、ベッド数など病院の規模を考えなければならない、という趣旨。耐震の問題があり、新しい病院がで

きるまでに 7、8 年かかるため、早急に方向付けをしたいと思っている。町民の方ともいろいろな議論を重ねていく。町民からは、広域で連携し、お金を出し合っただけで病院を作れないかという意見もあるが、足並みが揃っていない。また、小規模でもある程度の医療を受けられるような総合病院が町内にあったほうが良いという意見もある。将来の町の財政で耐えうるような規模の病院を作るべきだというご意見もあった。

町民：

孫に何かあった時は岩見沢市の病院に行っている。栗山町の先生は信用できない。

福祉総括：

他の懇談会場でも、日赤病院ではなく近隣の岩見沢市や札幌市の病院へ通院しているというお話を耳にした。開業医も含めて、町民が信頼できる医療体制の構築を目指していく。受診動向に関しては、町民の 6 割が日赤病院へ、2 割が岩見沢市へ、1 割が専門性の必要もあり札幌市へ行っているのが現状。近隣の町では、南幌町と長沼町は半数以上が札幌圏へ向いている。由仁町や夕張市に関しては日赤病院にも来ているが、1 割程。1 市 4 町の枠組みでの検討と併せて、枠組みにとらわれない考え方も必要だと思う。南空知のどこの病院も老朽化が進んでいるが、経営が厳しい状態。岩見沢保健所が中心となり、議論を進める必要があると思われる。

町長：

厚生労働省から出たデータでは、再編・統合と発表されたが、あのデータに掲載された全ての病院が無くなるということではない。都道府県の動きが鈍いため、国が動いたという背景もある。

【北海道介護福祉学校について】

町民：

介護福祉学校の入学者が急激に減っているのはなぜか。

教育長：

介護福祉士の資格取得に国家試験制度の導入が論議されるようになったことが要因のひとつとしてある。これまでは、専門学校を出て勤務経験をつめば介護福祉士として認定される仕組みだったが、今後は国家試験に合格しなければ介護福祉士を名乗れなくなる。子どもたちの国家試験への抵抗感が強かったことと、まだ国家試験の実態が明らかになっていないということで、子どもたちが離れていったのではないかと考えられる。

町長：

国は、深刻な介護士不足に対し、外国人材や有資格者の掘り起こし、シルバー人材の雇用で賄おうと考えており、養成校への支援はない状態。5 年前に全国で 440 校あった介護士養成校が、経営難で 20%減少した。

町民：

定員 40 人で運営をすれば赤字は出ないのか。

町長：

40人確保したとしても3,000万円から4,000万円の赤字は出る。今年は8,000万円の赤字であり、半減できれば何とか町民の皆さんに理解いただけるのではないかと議会と議論している。今後、介護福祉学校がしっかりと地域の中に入って貢献し、町民の皆さんに必要なだと認めていただける学校になるべく、4年間の計画を遂行していく。結果が出せなければ、栗山町スキー場のように存廃を考えなくてはならなくなる。

町民：

人口も減少し入学生も減るのならば、介護福祉学校は募集停止したほうがいい。高齢者は増えていくが、介護福祉士を目指す、介護の学校に来る意欲のある子どもがいないのではないか。道外から学生は来ているのか。

教育長：

道外からは来ていないが、道内に関しては、町外からも多くの学生が来ている。

町長：

平成15年くらいまでは、定員を満たす程度の学生が集まっていた。

町民：

学生寮も今はほとんど人が入っていないのではないか。設備の老朽化が目立つ。

教育長：

学生寮は、今は半数程度しか埋まっていない。

これからの介護を考えたときに、高齢者が増加し、在宅で介護するケースが増えると考えられる。介護福祉学校は在宅での介護者に対して、負担を軽減できるような介護のノウハウを町民の方に広くお伝えすることができる。また、どんな介護サービスが活用できるのかという知識も介護福祉学校は持っている。そういったノウハウや知識を福祉課とも協力しながら、町民の皆さんに伝えていき、役に立てるような存在になっていきたいと思っている。

町民：

介護福祉学校に学生が来たいと思わないから来ないのではないか。栗山町は家賃が非常に高く札幌市並みであり、学校の場所も遠いため、同じ家賃なら遊ぶところが多い札幌市を選ぶのではないか。

町長：

他の会場でも家賃の話が出た。今の若い方の考え方にもよる。町のような環境で学業に専念したいという子もいるだろうが少数派であり、大多数は札幌市のようにアルバイトが多い環境を選ぶかもしれない。実際には、介護学生は実習などでアルバイトする時間もないという状況もある。

町民：

昔はコンビニエンスストアでアルバイトしている人を結構見かけたが、最近はそういった人を

見ることもない。

町長：

まずは4年間の改善計画をしっかりと進めていきたい。

【栗山高等学校について】

町長：

栗山高校も存続させたいという想いは一つ。開校90周年式典に参加してきたが、町に唯一の高校を残していきたいという気持ちは一つになっていた。現在、学校の魅力を高める取り組みを行っている。

教育次長：

今年の栗山高校の入学生は33人で、うち栗山中学校の卒業生が19人。残りの14人中、岩見沢方面から9人来ている。それ以外は、夕張市・由仁町・長沼町から5人。去年の栗山中学校の卒業生のうち、8割近くが栗山高校以外に進学している。栗山高等学校の魅力づくり委員会の中でも、このまま普通科のみでいいのだろうか、といった議論を行っている。三笠市のように特色をもたせるなど、栗山町も工夫したい。生徒への支援も含めて、何とか41人以上の入学者数を確保できるよう、営業活動を行っている。

町民：

10年前には人口が減ること、学生が減ることを分かっていた、そのときに入学者数が減ることは議論できなかったのか。その時点で対策をしていなかったから、今こういう状況になっているのではないか。

町長：

その頃は学区のしほりもあり、栗山中学校からの進学者数が減少することは見込めなかったのではないかと思う。人口減少は進んでいるが、栗山中学校にはまだ90人程の学生がいるため、理想は栗山中学校から40人以上、近隣の町からも同程度入学してきて、80人程の生徒数を確保すること。そのために高校の魅力づくりをしたい。学科を新設するのは認可が必要であり、時間を要するため、早めに準備したい。

【栗山駅周辺・商店街の活性化について】

町長：

駅前商店街も難しい状況が続いているが、マルシェが非常に好評だった。そういった取り組みを継続しつつ、農協から購入したレンガ倉庫に新施設ができれば、新たにトラック販売をすることもできるのではないかと考えている。先日、全国1位の道の駅を視察してきたが、イオンをそのまま道の駅にしたような建物で、農産物やお花など地元のもものがたくさん並んでいた。地元の方はスーパーマーケットとして利用しているほか、高速が近くを走っているために他の地域からのお客さんもたくさんいる状況。他の懇談会場でも道の駅をつくる計画はないのかというご意見をいただいております、イメージはしているが、他の山積する問題もあり、町単独では難しいということもある。

町民：

そういった構想がうまくいくと、商店街がさびれてしまうということにもなるのではないか。

町長：

実際に実現できることになれば、駅前商店街への動線もしっかりと考えたい。現在進めている農協から購入したレンガ倉庫についても、そこから駅前商店街へ人を引き込めるような対策を考えたい。

【回覧板について】

町民：

自治会長に回覧が回ってくるが、短期間に何度も来る。月ごとなど一括して送ってもらえないか。

総務課長：

至急の連絡がある場合は難しいが、基本的には毎週水曜日にまとめて送っている。

町民：

日付を見て、余裕があるものは様子を見ながら、ある程度ためて回すようにしている。

町長：

毎週というのはやはりハードかもしれない。なるべくまとめられるようにしたい。

町民：

学校だよりを回覧板で回すのはどうなのか。子どもがいる世帯は、必要ないのではないか。

教育長：

学校が何をやっているのかお伝えするために回している。

【冬季の子どもたちの遊べる施設に関して】

町民：

冬の間子どもたちが遊べる施設の運用はできないか。

町長：

次の計画時に検討したい。農協から購入したレンガ倉庫にDIY工房を設置するので、遊べるように検討したい。

【スクールバスに関して】

町民：

スクールバスは国道の西側は回ってもらえないのか。

教育長：

部活動などで遅くなる生徒は特例だが、他は運行経路が決まっていて、難しい。

教育次長：

スクールバスは6台で運行しているが、空白地区は出てしまう。バスの運行経路は検討する必要がある。

【小学校の統合に関して】

町民：

小学校の統合はしないのか。

教育長：

角田小学校と継立小学校は人数の増減はないだろうが、栗山小学校は一学年の人数が少なくなる可能性がある。その場合は統合も考える。

町民：

学校の耐久年数も厳しいので、統合してスクールバスの本数を増やしたほうが町の予算としても良いと思う。